

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	1	計画書ページ	36ページ
事業名	福祉総合相談支援体制の整備		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	1 他分野・他機関連携体制の整備
担当課	福祉総務課ほか6課

1 事業概要

相談支援について、分野を横断した連携を強化し、包括的で総合的な相談支援が行えるような体制づくりを進めます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 断らない総合相談窓口の整備に向け、国が開催する研修会に参加し、先進地事例や国の動きなど情報収集を行った。
 また、システム開発業者と総合相談窓口システムの開発に向けた協議を行った。なお、総合相談窓口の設置は新庁舎の供用に合わせるため、設置目標年度を見直した。

【成果】
 国が推進している断らない総合相談窓口のイメージを掴むことができ、総合相談窓口システムについて、開発業者と意思疎通を行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 総合相談窓口のあり方や運用方法、システム導入の要否、設置にあたっての財源の確保などについて、引き続き検討する必要がある。
 福祉総合相談支援包括化推進員について、直接雇用か事業委託を行うか検討が必要である。

【取り組み方針】
 令和4年度の市役所新庁舎の供用開始に合わせ、引き続き検討を行っていく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
福祉総合相談窓口の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	実施方法の検討	設置	実施	-
	実績	検討中					
	達成度	75%					
福祉相談支援包括化推進員の設置	目標	実施方法の検討	実施方法の検討	実施方法の検討	設置	実施	-
	実績	検討中					
	達成度	25%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	国が推進している断らない総合相談窓口のイメージを掴むことができたが、財源の問題や委託先の選定など不十分な点が残っているため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	2	計画書ページ	38ページ
事業名	生活支援体制整備事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護や支援を必要とする高齢者などの需要に応じ、多様な機関を有機的に結び、必要な情報の共有化を進め、総合的で継続的に保健・福祉・介護サービスを提供する地域包括ケアシステム体制の推進のため、中学校区等（全27地区）ごとに地域協議体を設置し、生活支援コーディネーターを配置します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 地域協議体の開催(年3回程度)や地域協議体委員を対象とした研修会を実施し、地域住民相互の支え合い体制づくりについて検討をおこなった。
 また、地域ごとに高齢者アンケートを実施し、地域の困りごとなどの実情把握とその課題解決に向けた検討を行った。

【成果】
 類似公民館等を活用した「通いの場」の充実、介護予防のための運動教室やサロンの開催を行い、地域内の交流を促進した。
 また、支え合い体制をさらに具現化するために、新たに住民主体の訪問サービス（御用聞き）の実施の検討・準備を行っている地域も出てきた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 ・地域協議体はあくまで情報共有・検討の場であり、実際に具体的な取り組みを行う際には、各団体の枠を超えた協力体制の下、確固たる実施組織の立ち上げが必要。
 ・団体に属していない住民をどう活動に巻き込むのか。

【取り組み方針】
 実施組織については、地区社協の1つの部会とする、団体の枠を超えた新たな組織を作る、など、地域の実情に応じて展開する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
地域協議体の設置（地区）	目標	27	27	27	27	27	地区
	実績	25					
	達成度	93%					
生活支援コーディネーター	目標	14	14	14	14	14	人
	実績	12					
	達成度	86%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	地域によって地域協議体の取り組みに対する温度差があり、協議の場さえできていないところもあるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域協議体の取り組みや活動を知ってもらい、可能な範囲で参加・協力してほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	3	計画書ページ	38ページ
事業名	在宅医療・介護連携推進事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

市が設置する「在宅医療・介護連携支援センター」において、医療・介護サービス関係者からの「在宅医療」に関する相談などに対応し、地域医療と介護の連携を推進します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 相談対応：「在宅医療・介護連携支援センター」月平均10件
 会議開催：在宅医療・介護連携支援センター運営委員会1回、ワーキンググループ委員会11回、訪問看護部会6回、退院支援ルール調整会議2回
 研修会等の開催：地域医療講演会1回 参加者286人、多職種連携研修会3回 参加者延544人、住民公開講座2回 参加者延405人
 【成果】
 ・ワーキンググループ委員会、多職種連携研修会等を通して、多職種が連携しやすい環境として顔の見える関係づくり、ネットワークづくりが出来てきた。
 ・住民公開講座では「人生の最期まで自分らしく生きる」をテーマに多くの参加者があり、在宅医療と介護連携について地域住民の理解を促した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 ・研修会参加者の固定化、同職種間の取り組みに対する温度差
 ・エンディングノートの普及啓発
 【取り組み方針】
 ・多職種研修会については、年間を通じた継続研修を行い、多職種連携や同職種連携を深める。
 ・エンディングノートの普及啓発の検討

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	多職種連携の基本である顔の見える関係づくりが進んできた。今後も在宅医療・介護連携の現状や課題を整理しながら効果的に事業を進める必要がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

在宅医療・介護連携について関心を持ち、住民公開講座等に参加してほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	4	計画書ページ	38ページ
事業名	離島診療所の医師及び看護師確保		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	2 地域医療・福祉の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

医療施設に恵まれない離島住民の健康保持、医療・衛生の向上のため、市内 5 か所の離島診療所で従事する医師と看護師を確保します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
高島診療所の医師退職に伴い専従医師確保に努める。

【成果】
各離島診療所において専従医師の確保ができ、所期の目的を達成

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
高島診療所において、令和元年度途中で健康上の理由に医師が退職したため、離島診療所医師等によるシフト制の医療体制に移行したため今後、どのような診療体制にするか協議が必要

【取り組み方針】
医師不足による医師確保が厳しい中、従前どおり医師確保をし医療体制を構築するか否かを含め、今後の離島の診療体制について抜本的な方針を見直す必要がある。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
離島診療所の医師数 ⇒神集島 1人 馬渡島 1人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	5	5	5	5	5	人
	実績	4.8					
	達成度	96%					
離島診療所の看護師数 ⇒神集島 2人 馬渡島 2人 高島 1人 小川島 1人 加唐島 1人	目標	7	7	7	7	7	人
	実績	7					
	達成度	100%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.5	医師が欠員していた高島診療所において常勤の医師確保ができたため。しかし、年度途中で退職したことから、引き続き医師を確保できるよう、関係団体等に協力を要請するとともに確保に向けた取り組みを行う。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	5	計画書ページ	39ページ
事業名	小地域福祉活動推進事業		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

小地域における福祉のリーダーとして市社会福祉協議会と地区（校区）社会福祉協議会が設置する「福祉員」の活動を支援します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
福祉員の活動に対し補助を実施した。また、福祉員の活動の実態把握を行い、今後の体制について関係機関と協議を行った。

【成果】
地域における見守り活動や外出支援など福祉員が民生委員のサポート役として地域内で活動することにより、より細やかな地域ニーズの把握、地域内における問題解決につながった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
未だ福祉員を配置出来ていない地域があるため、全地域に最低 1 名は配置できるよう、福祉員の必要性等を周知していく必要がある。

【取り組み方針】
福祉員の数を増やしていくことと同時に、資質を向上させるため福祉員向けの研修会等を実施する。また、旧郡部は福祉員制度を導入して日も浅いため、引き続き、地域の下支えとなられる福祉員の必要性等を伝え、制度の浸透を図る。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
福祉員の設置数	目標	891	おおむね50世帯に 1 人				人
	実績	857					
	達成度	96%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	目標数に近いところまで、福祉員を設置することができ、順調に進んでいると言えるが、未だ配置出来ていない地域があるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	6	計画書ページ	40ページ
事業名	民生委員・児童委員の活動支援		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

地域における身近な相談窓口である「民生委員・児童委員」の活動を支援するとともに、地域の実情に応じた適切な定数を確保します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
唐津市民生・児童委員連絡協議会の運営及び活動に対し補助を実施した。
令和元年12月の一斉改選に合わせて、地域の実情をとりまとめて、担当区域を見直すとともに定数の増員を行った。

【成果】
民生委員・児童委員の研修などの充実により、各委員の資質向上を図ることができた。また、活動を補助することにより、各委員の経済的負担を軽減し、円滑な委員活動に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
民生委員・児童委員に求められる活動が多様多様となっていることから、委員の負担軽減を図る必要がある。

【取り組み方針】
市で福祉の総合相談窓口を設置し、問い合わせ先などを一本化する。また、保健福祉ガイドブックを作成し民生委員・児童委員に配布することで、事案に応じた対応を速やかに確認することができる体制を整える。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
民生委員定数	目標	336	定数見直し 検討	定数見直し 協議	一斉 改選	定数見直し 検討	人
	実績	335					
	達成度	99%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	令和元年12月の一斉改選に合わせて、地域の実情をとりまとめて、担当区域を見直すとともに定数の見直しができる。今後は、民生委員の負担の軽減を図りたい。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	7	計画書ページ	40ページ
事業名	既存公共施設の地域の見守り拠点化の検討		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	福祉総務課、生涯学習文化財課

1 事業概要

地域に存在する公民館などの既存公共施設を、地域の見守りの拠点とするための検討を進めます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	今の取り組み状況を把握するため、関係各課に既存公共施設を利用した地域の見守り事業の実施状況を照会し、情報共有を行った。
【成果】	既存公共施設における現在の取り組み状況の一覧表を作成することができ、関係各課で情報共有ができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	地域間で事業取り組みの偏りがみられる。また、地域において見守り事業に取り組む人材が不足している。
【取り組み方針】	新規に事業へ取り組む際には、まずは実施されていない地域において、事業展開を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	初年度として、関係各課にて情報共有を行うことができ、概ね順調に進んでいるが、同時に現状の課題も確認することができたため、課題解決に取り組みたい。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域行事へ積極的に参加する、または呼びかけを行うなど、住民同士の顔が見える関係づくりをお願いします。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	8	計画書ページ	40ページ
事業名	学校・家庭・地域社会の連携強化		

基本目標	I 地域での包括的な支援のために
施策の方向	3 地域の見守り体制の充実
担当課	学校教育課、学校支援課

1 事業概要

学校、家庭、地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールづくり）を推進します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
第一中学校校区の3校（第一中学校，長松小学校，大志小学校）において、コミュニティスクールが設置されており、中学校における職場体験学習や面接指導、小学校における読み聞かせ活動，授業におけるゲストティーチャーとしての活動等を行った。

【成果】
様々な学校行事や学習活動を家庭・地域の協力を得て行うことで、児童生徒の教育活動についての学校・家庭・地域における連携を強化した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
学校・家庭・地域との連携をする上で、コーディネートをする役割をする地域人材が必要である。

【取り組み方針】
第一中学校校区の取り組みを支援しながら、その推進方法を他へ広げることで、今後の学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちを育む地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールづくり）を推進する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	年間を通じて、各学校の教育活動における、家庭・地域への情報発信、協働した活動は、増加しているが、学校側からの働きかけによるものが多く、コーディネートをする地域人材が必要である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	9	計画書ページ	47ページ
事業名	唐津市保健福祉ガイドブック（仮称）の発行		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	4 情報提供の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市が提供している保健・福祉分野の各種サービス等を網羅した、市民向けのガイドブックを発行します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 どのような掲載内容及び発行方法でのガイドブックが良いか、他市のガイドブックの情報や企画会社からサンプルを取り寄せた。
 なお、発行時期については、新庁舎の供用開始に合わせるため、令和4年度を目標に見直した。

【成果】
 ガイドブックの発行に向け、イメージを掴むことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 冊子の発行に向け、どこまでの情報を掲載するのか、関係各課で協議を行う必要がある。予算の確保に向け、財源を検討する必要がある。

【取り組み方針】
 引き続き掲載内容及び発行方法について、検討を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ガイドブックの発行	目標	掲載内容及び発行方法の検討			発行	—	—
	実績	検討中					
	達成度	75%					
—	目標						—
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	他市のガイドブックや企画会社との打ち合わせを行い、発行するガイドブックのイメージを掴むことができたため、順調に進んでいると評価した。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	保健医療課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 新任期保健師研修会9名・中堅期保健師研修会 5名・市町村保健師管理者能力育成研修会2名・九州ブロック保健師等研修会1名・九州地区母子保健指導者研修会（8名）・日本公衆衛生看護学会1名

【成果】
 研修を受けることにより、それぞれの年代で担っている保健師としての役割を学ぶことができ、また、専門的知識を学ぶことにより、相談従事専門職として力量形成を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 相談業務は様々なケースがあり、経験年数が少ない職員の育成が課題である。

【取り組み方針】
 地区担当制及び業務担当制をとおり、職員育成を推進していく。（共に訪問等の相談業務にあたることにより後輩職員が先輩職員から学ぶ場を作っていく）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	研修会参加機会の確保はできたが、元年度は職員、事業実施体制の変更に伴い、新任期教育を十分にできなかったと反省するところがある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	子育て支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
佐賀県児童虐待防止対策研修会(10日間)3名、DV関係機関相談員向け研修(5日間)1名、DV被害者支援市町連携会議2名、子ども虐待予防地域連携研修会2名などの研修を受講している。

【成果】
各業務の相談援助技術を高めることができた。また、関係する法律の理解を深めたことで、行政機関としての相談支援の質の向上に繋がった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
研修参加により相談員が不在する場合にも、係内、課内で対応できるよう職員の意識の醸成が課題。

【取り組み方針】
県内、県外研修に関わらず、相談員がより多くの研修等に参加できるよう相談員の業務分担を見直す。また、計画的な研修受講の継続、受講後の他相談員や課内職員等への伝達講習、及び相談支援業務に関連性の深い市の事業について知識を深めることで、相談員だけでなく職場全体でスキルアップを目指していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	各種研修を受講できてはいるが、県外研修等の受講ができていない。また、日々の業務を評価する職員がおらず、今後の人材育成が課題となるため評価を3.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
佐賀県相談支援ネットワーク協会主催の研修会、佐賀県相談支援事業連絡協議会主催の研修会、相談支援従事者初任者研修等の各研修会に積極的に参加した。

【成果】
障害者相談員の相談支援に関するスキルアップに繋がり、円滑な相談支援体制の醸成が図られた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
障害者相談員の中心的な役割を担う相談員（スーパーバイザー）の育成。

【取り組み方針】
主任相談支援専門員養成研修への積極的な参加。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	関係機関が開催する研修会には、概ね参加することができた。今後は、主任相談支援専門員養成研修への参加を目標としたい。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 認定調査員研修（厚労省）1人、認定調査スキルアップ研修（民間）2名、介護相談員養成研修（委嘱介護相談員）14名、在宅医療・介護連携多職種研修4名などの研修を受講している。

【成果】
 各業務の専門性を高めることができた。利用者に寄り添った相談支援が可能となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 専門的な相談支援を実施するため、経験年数が少ない職員の育成が課題

【取り組み方針】
 業務分担を整理し、計画的に研修を受講することで職場全体のスキルアップを目指す。研修で得た知識等を職場内で共有することで理解を深める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	各担当で各種研修を積極的に受講できているが、受講しやすい環境づくりに課題が残るため評価を4.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
各専門職が専門性を高めるため、国、県、関係団体等主催の研修を積極的に受講した。
必要に応じて報告会を行う等課内で情報共有を行った。

【成果】
各専門職のスキル向上につながった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
・専門職の人材不足等により十分な相談支援体制ができていない。

【取り組み方針】
・人材確保、相談支援体制の検討

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	各専門職のスキル向上を図っているが、人材不足等により相談支援体制が不十分である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	10	計画書ページ	49ページ
事業名	各相談支援窓口職員向け研修の実施		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	生活保護課

1 事業概要

各相談支援機関の窓口で主に相談支援業務に従事する職員の専門性を高めるため、外部研修などを積極的に受講します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	自立相談支援事業従事者養成研修をはじめ、国、県、関係団体が開催する各研修会に参加した。
【成果】	相談員のスキルアップに繋がり、相談支援に対する意識の向上が図られた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	生活困窮者に対応するため、各方面の機関と連携が必要であり、それに伴う知識が要求される。相談支援員各々の質の向上のためにも、積極的に研修等を受講することが理想であるが、人員体制及び予算が伴わない。
【取り組み方針】	研修会へ積極的に参加できる体制を構築する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	受けるべき研修会は受講することができているが、積極的な研修等受講の体制が不十分である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	11	計画書ページ	49ページ
事業名	民生委員・児童委員及び福祉員の研修活動への支援		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市社会福祉協議会と連携し、民生委員・児童委員及び福祉員が行う研修活動への支援を行います。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
唐津市民生・児童委員連絡協議会の運営に対し補助を実施した。

【成果】
各地区協議会で研修会などを開催することで、民生委員・児童委員の資質向上を図ることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
民生委員・児童委員と福祉員が連携した活動の支援。

【取り組み方針】
地域で福祉員が活動するために必要な研修などを実施する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	民生委員・児童委員に補助を実施することで、研修などが充実され資質向上が図られる一方、福祉員は地域により活動や取り組みに差があるため、全体的な資質向上のための取り組みを行う必要がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	12	計画書ページ	49ページ
事業名	福祉部門に配置する専門職の雇用		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	5 相談支援体制の充実
担当課	人事課

1 事業概要

福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職職員（例：社会福祉士）の雇用を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	福祉部門で主に相談支援業務に従事する専門職職員として、社会福祉士の採用枠を設け、募集を行った。
【成果】	令和元年度は通常の募集枠（1名）のほか、市外在住者を対象とした民間企業経験者枠（若干名）を設け、募集を行った結果、民間企業経験者枠で1名を採用することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	平成30年度は、募集人数2名に対し15名の応募があったが、令和元年度は募集人数2名程度に対し4名のみ応募であり、受験者数の確保が課題となっている。
【取り組み方針】	福祉部門における各担当課の現状を把握しながら、引き続き相談支援業務に従事する専門職職員の配置の必要性を検討し、募集を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規採用職員専門職募集数	目標	3	実情に応じて検討				人
	実績	2					
	達成度	66%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	募集人数に対し応募者数が少ないため、応募者数の確保に向けた取り組みが必要。 ※評価年度における目標値は、次年度の職員増減計画で募集を行った職種の所管部による計画人数
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。
また、親族がいない高齢者等の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】 成年後見制度等の相談を受け付け、支援会議を開催し市長申立を行った。また本人の資力等を考慮し報酬助成を行った。
【成果】 成年後見等申立件数 4件 報酬助成 1件

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】 相談を受ける窓口が高齢部門と統一されていない。選任（マッチング）も不十分なため中核機関の設置が必要。
【取り組み方針】 窓口を集約した中核機関の設置に向けて担当課会議を開催。引き続き運営や予算等の具体的な協議を進める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
申立件数（障がい者）	目標	1	1	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	件
	実績	4					
	達成度	100%					
成年後見人報酬助成件数（障がい者）	目標	3	4	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	件
	実績	1					
	達成度	33%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	市長申立・報酬助成については順調に進んでいるが、中核機関の設置についてはさらなる協議が必要であり具体的な検討には至っていない。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

--

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	13	計画書ページ	51ページ
事業名	成年後見制度利用支援事業		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	6 権利擁護体制の整備
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

認知症や障がいなどの理由で、判断能力が十分でない人の権利を守るため、成年後見制度の啓発並びに相談支援を推進します。
また、親族がいない高齢者等の成年後見申立てを市長が行うとともに、本人の資力等を考慮し、必要に応じて成年後見人等に対する報酬助成を行うことで、制度の利用を推進します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
・認知症高齢者等に対する成年後見、保佐または補助開始の審判の市長申し立てを行った。
・後見人等の報酬の支払いに対する助成を行った。
【成果】
・認知症高齢者等に対する権利擁護を図ることができた。
・報酬助成により、安定した制度活用につなげることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
高齢化が進み、成年後見制度の需要が増加する一方で、成年後見人の担い手が不足している。
【取り組み方針】
・担い手不足の解消のため、市報等を活用した普及啓発を行う。
・市民後見人の育成に向けた関係機関との情報共有を進める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
申立件数（高齢者等）	目標	4	4	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	件
	実績	4					
	達成度	100%					
成年後見人報酬助成件数（高齢者等）	目標	4	4	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	件
	実績	7					
	達成度	175%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	必要とされる方の権利擁護や報酬助成等により数値目標は達成したが、成年後見人の担い手不足や中核機関の設置等の課題があるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

制度自体を知ってもらった後に、地域での見守りや声掛けを行っていただき、適切な機関へ繋いでほしい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	14	計画書ページ	53ページ
事業名	避難行動要支援者名簿の活用と啓発		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	福祉総務課、危機管理防災課

1 事業概要

災害の発生またはその恐れがある場合に自ら避難することが困難な人の円滑かつ迅速な避難のため、特に支援を必要とする「災害時避難行動要支援者」を把握し、避難の支援を実施するために作成する名簿掲載情報のうち、随時更新ができない難病患者に関する情報について、佐賀県唐津保健福祉事務所と連携し、定期的に最新の情報に更新します。また、市民に対し避難行動要支援者名簿制度の周知を図るとともに、災害時における地域の助け合いのための取り組みを推進するために、「避難行動要支援者名簿」を活用したいと考えている地域の支援組織（自主防災組織など）に対する情報提供のため、名簿掲載者から、平時からの情報提供同意を得るように啓発に努めます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 避難行動要支援者名簿を毎月更新し、新たに名簿に登録された方に対し、地域の支援組織への情報提供するための同意確認を行った。

【成果】
 同意を得られた避難行動要支援者の名簿を駐在員、民生委員・児童委員に提供することで、地域の要支援者の情報を共有できた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 地域の支援組織への情報手教に関する同意確認について、未回答の方がいる。

【取り組み方針】
 毎年度、未回答の方にも勧奨通知を行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
平時からの情報提供同意者数	目標	4,000	4,250	4,500	4,750	5,000	人
	実績	3,502					
	達成度	87%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.5	避難行動要支援者の約7割の意向を確認できているが、未回答の方がおり、介護サービス提供者などの協力を得て、制度を周知し、回答してもらえよう勧奨していくことが必要のため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

避難行動要支援者制度の理解を深めるとともに、地域における災害時の課題を整理、対応に向けて話し合いを進めていただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	15	計画書ページ	53ページ
事業名	自主防災組織の設置促進		

基本目標	Ⅱ 利用しやすい福祉サービスの提供のために
施策の方向	7 災害・緊急時の支援体制の充実
担当課	危機管理防災課

1 事業概要

市民の安全・安心のため、地域内で自主的に活動する自主防災組織の設置促進に努めます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】				
自主防災組織の立ち上げに関する相談に応じ、地域での防災講和を実施した。また、自主防災組織が行う防災訓練や資機材整備に対し補助を行った。				
【成果】				
新規設立 1 団体	防災訓練に関する補助	11団体	補助額	277,000円
	資機材整備	19団体	補助額	1,696,000円

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	
自主防災組織は地域における自主的な活動であるため、新規の設立に向けては、地域の中にそのような機運や危機意識が十分にあることが欠かせない。しかし、地域をまとめるリーダーの不在や役員のなり手がいないなど、話し合いがすすみにくい地域特有の事情を抱えていることも多く、新規設立数の伸びは鈍化傾向にある。	
【取り組み方針】	
できるだけわかりやすい資料を作り、設立の相談に丁寧に応じるとともに、地域の要請による防災講話で成功事例などを紹介しながら、設立の機運を醸成するための取り組みを地道にすすめていきたい。	

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
自主防災組織設置数	目標	137	73	76	79	82	組織
	実績	71					
	達成度	52%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	2.5	2年続けての豪雨災害の教訓を踏まえて災害対応体制の見直し作業など、緊急性の高い業務を優先しているところで、十分な推進を行うマンパワーが足りていない。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

地域の災害時避難行動要支援者や要配慮者のことを知って、万が一の場合に地域でどのように助け合うべきか理解を深めていただきたい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	16	計画書ページ	57ページ
事業名	福祉サービス苦情解決制度		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	8 福祉サービスの質と量の充実
担当課	福祉総務課

1 事業概要

市が所有する福祉施設での利用者の苦情解決を図るため、各福祉施設に苦情解決責任者、担当者を置き、苦情解決に努めます。
また、苦情解決を中立かつ公平に行うため、第3者委員による苦情解決処理委員会を設置します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
施設ごとに苦情解決責任者、担当者を配置した。また、苦情解決システム事業運営適正化委員2名の期間満了に伴い、改任を行った。

【成果】
社会福祉施設の苦情解決に一早く対応できるよう、体制整備が出来た。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
苦情につながる前の環境づくりをさらに強化する必要がある。

【取り組み方針】
各施設から定期的にヒアリング等を行い、ニーズ等の把握に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	責任者、担当者を配置し、順調に体制整備が出来ていると考える。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	保健医療課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
令和元年度において、個別計画策定（見直し）は行っていない。

【成果】
なし

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
当事者の意見、事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。

【取り組み方針】
健康増進計画、食育計画を統合し、令和5年度に策定予定。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	—	計画策定（見直し）時に実施を検討予定
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	子育て支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
市内に居住する小学校就学前の児童2,000人の保護者および小学生2,000人の保護者を対象に、平成30年度に実施した子育て支援ニーズ調査をもとに、子ども・子育て会議を開催し、その中で市の現状と今後の課題を整理して、第二期子ども・子育て支援事業計画を策定した。

【成果】
市を取り巻く環境や、ニーズ調査の結果を踏まえ、今後の課題として整理することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
急速な少子化の進行、児童虐待件数の増加、子どもの貧困問題、障がいのある子どもへの対応の必要性など、事業の見込み値と実情が大きく乖離しないように、子どもと子育て家庭を取り巻く環境の変化を重視して、対応していく必要がある。

【取り組み方針】
令和2年からの5年間の期間の中で、計画の見直しの必要がある場合は、子ども・子育て会議の中で審議し、修正等していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	これまでの取り組みはもちろんのこと、新しい課題に対応するために策定した第二期計画のため、評価点を4.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
令和元年度において、個別計画策定（見直し）は行っていない。

【成果】
特になし。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
当事者の意見、事業関係者等の意見など広く意見を聴取する必要がある。

【取り組み方針】
令和2年度、5年度、からつ自立支援プラン策定予定（3年ごと）
令和9年度第3次唐津市障がい者基本計画、策定予定（10年ごと）

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	—	計画策定時に実施する予定である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 介護保険事業の実施状況等について意見を交換し、介護保険制度の円滑な運営に資するため、介護保険運営協議会を開催した。（例年2回開催しているが、令和元年度3月開催予定の協議会は新型コロナウイルス関係で開催を見送った。）

【成果】
 協議会の委員には、保健医療関係者、福祉関係者、サービス事業者及び被保険者の代表として各地区の民生員計17名で構成されており、それぞれの専門的な意見を聞くことができる。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 事務局からの一方的な説明が多く、それぞれ意見は出るものの活発とまではない。

【取り組み方針】
 協議会資料を分かりやすくし、意見が出しやすい環境づくりにも検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	現在の取り組みでも特に問題はないものの、活発な意見が出しやすい資料の作成等検討できることはあるため評価を4.0とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	17	計画書ページ	59ページ
事業名	個別計画策定（見直し）時における当事者の参画		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	9 新たな福祉ニーズへの対応
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

各課で作成する個別計画の策定、見直し時において、計画策定委員等への当事者の参画を通じて、新たな福祉ニーズの把握及び対応方法を検討します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
地域包括支援センター運営協議会で各事業の年度計画や報告を行った。（2回開催）
【成果】
委員からの意見等を参考に事業の課題整理や見直しを行いながら事業を進めた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
地域の実情を踏まえた計画になるよう、地域ごとの課題分析や関係機関等の意見聴取が必要である。
【取り組み方針】
令和2年度 第10期高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画策定

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	運営協議会は活発な意見交換の場となったが、地域の実情把握が不十分との意見があり、今後、地域ごとの分析が必要である。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	障がい者支援課

1 事業概要

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	下肢障がい（3級以上）または体幹障がい（3級以上）を持つ人に対して、スロープの設置や段差の解消などの住宅改修費を助成する。
【成果】	4件（本庁2件、北波多1件、相知1件） 公費負担額計770,000円

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	下肢障がい・体幹障がいを持つ難病患者など、制度を利用できる対象者に周知ができていない。
【取り組み方針】	病院や保健福祉事務所など関係機関と連携し、制度の周知に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
給付件数（障がい者）	目標	5	5	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	件
	実績	4					
	達成度	80%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	実績は目標に近い数値ではあるものの、制度の周知が必要と考える。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	18	計画書ページ	62ページ
事業名	住宅改修費の助成		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

居宅要介護被保険者が、現に居住する住宅について、手すりの取付け、段差の解消、床材の変更、扉の取替え、便器の取替え等の住宅改修を行った場合、介護給付を行うことにより、被保険者が自立した日常生活を営むことができるよう支援する。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	住宅改修費支給申請書が提出された場合、内容を確認し申請内容が適当であれば、住宅改修費（20万円限度）から利用者負担分を差し引いた額を支給した。
【成果】	介護給付を行うことにより、被保険者が、現に居住する住宅において自立した日常生活を営めるよう支援することができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	内容の審査時に、住宅改修として適当と認められる工事の範囲や、工事の適正価格の判断について、専門知識が必要とされる。
【取り組み方針】	内部や他保険者間で情報共有を行い、審査の公平性に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
給付件数（高齢者）	目標	336	336	336	336	336	件
	実績	334					
	達成度	99%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	単年度目標の99%を達成することができ、順調に進んでいる。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	19	計画書ページ	62ページ
事業名	高齢者住宅改修支援事業		

基本目標	Ⅲ 福祉サービスの向上のために
施策の方向	10 生活環境の整備
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

介護保険の給付対象となる住宅改修について、居宅介護支援などの提供を受けていない要介護（支援）者に対し、住宅改修費の給付申請に必要な書類等を作成する経費への助成を行うとともに、介護支援専門員が住宅改修に関する相談を受け、助言・情報提供・連絡調整等を行うことで、適切な住宅改修を支援します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
介護支援専門員が住宅改修費の給付申請に係る理由書を作成した場合に、作成事業者に謝金を支払う。
【成果】
居宅介護支援の提供を受けていない要介護（要支援）者においても、住宅改修の申請が容易となった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
介護支援専門員の制度理解
【取り組み方針】
周知に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
助成件数	目標	48	48	48	48	48	件
	実績	25					
	達成度	52%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	相談すべき介護相談員の紹介において課題が残る。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

--

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	20	計画書ページ	69ページ
事業名	地域コミュニティ組織等の活動への支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	国際交流・地域づくり課

1 事業概要

地域コミュニティ組織やNPO法人等の設立を支援するとともに、その団体が行う自主的かつ主体的な活動を支援します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
NPO法人の設立支援や、地域コミュニティ組織である地域まちづくり会議の活動支援を実施した。

【成果】
2つのNPO法人の設立を支援し、16地区の地域まちづくり会議の活動を支援した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
交付金以外の財源がないため、持続的な運営に不安が残るものが見受けられる。地域まちづくり会議において、委員が一部の者に固定化しており、活動内容の周知も不足している。また、地域まちづくり会議の成熟度にバラつきがあり、効果的な活動か疑義のあるものが見受けられる。なお、防災や福祉の分野においても同様の協議体があり、市民の負担となっているという意見がある。

【取り組み方針】
交付金や補助金だけでなく自主財源確保を促す事業について検討する。
地域まちづくり会議の委員について、幅広く人材を募る。また、実施事業の発表会を行う。
他の自治体の事例を参考にしながら、地域まちづくり会議の計画立案や活動に職員が伴走する体制づくりを検討する。
防災や福祉の分野における同様の協議体と、統合又は連携していくことを検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	概ね順調であるが、上記課題等の不十分な点がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	21	計画書ページ	70ページ
事業名	がんばる地域応援補助金事業 （地域の市民活動の育成を図るソフト事業）		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 1 地域活動の担い手の確保と育成
担当課	国際交流・地域づくり課

1 事業概要

地域の市民活動の育成のため、様々な地域課題の解決を図る取組みに必要な経費への助成を行い、その活動を支援します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	市民のまちづくりへの熱意及び市政への参加意識を高めるとともに、地域の特性を活かした魅力あるまちづくりを推進する団体が実施する事業に対し、補助金を支出した。
【成果】	ソフト事業38件（うち新規7件）、整備事業7件に対し補助金を支出し、市民協働による快適で暮らしやすいまちづくりの実現に寄与した。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	補助対象事業の範囲が広く、市の他の補助金と競合する部分がある。 一度採択を受けた事業は5年間にわたり補助することができるが、6年目以降の実施状況を調査していないため、自立できたかどうかの検証ができていない。
【取り組み方針】	市の他の補助金と競合する事業は補助対象外とする。 継続の可否について原因を分析するため、交付期間を終えた団体に対する追跡調査の実施を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
新規助成事業数	目標	20	20	20	20	20	事業
	実績	14					
	達成度	70%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	数値目標における達成度は70%であり、上記課題も残っているため3点とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	22	計画書ページ	72ページ
事業名	唐津市ボランティアセンターの運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	福祉総務課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している唐津市ボランティアセンターの運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援することで、ボランティア活動への啓発に努めます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】	市民を対象とするボランティア養成講座、学校を対象とするボランティア体験講座等の活動に対し、補助支援を行なった。
【成果】	ボランティア養成講座10回の開催により、今後市内で活動するボランティア人材の育成に繋がった。また、学校向け講座では、学生だけではなく地域の方の参加も集い、地域全体としての福祉意識向上を図ることが出来ている。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアのマッチングを適切に行う必要がある。 ・災害ボランティアに関する知識を深める必要がある。また、災害時の運営方法を明確に定めることが必要。
【取り組み方針】	<p>今後、ボランティアのマッチングを適切に行い、必要とされる場所でボランティア活動が活かせるよう、取り組む必要がある。</p> <p>また、災害ボランティア講座や研修等を増やし、災害時にスムーズに対応できるような仕組みづくり、運営マニュアル等の作成を検討する。</p>

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ボランティア講座数	目標	6	6	7	7	7	講座
	実績	10					
	達成度	167%					
ボランティア講座への参加者数	目標	180	180	200	200	200	人
	実績	155					
	達成度	86%					
ボランティア連絡協議会 会員数	目標	4,200	4,200	4,230	4,230	4,230	人
	実績	4,200					
	達成度	100%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	ボランティア講座の開催に対し、参加者も増えてきており、福祉の意識向上に繋がってきていると考えるが、ボランティアのマッチングや災害ボランティアに関する知識の深める必要があるなど課題もあるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

--

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	23	計画書ページ	72ページ
事業名	市民活動支援センター「ステップ」の運営支援		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	高齢者支援課

1 事業概要

唐津市社会福祉協議会に設置している市民活動支援センター「ステップ」の運営に必要な経費への助成を行い、その活動を支援します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
共生社会構築の拠点の「総合窓口」として、情報提供や相談など市民の出会いの場を提供した。

【成果】
団塊の世代が中心となるシニア世代をはじめとした一般市民を対象に、持ち前の技能を活かした活動やボランティア活動へのマッチング、登録した人材情報の活用等を行うことで、市民の新たな活動の場を広げることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
事業内容を多くの人に知ってもらう。

【取り組み方針】
市報などに利用者などの活動の状況やコメントを掲載するなど周知方法を検討する。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
相談件数	目標	100	100	110	110	110	件
	実績	100					
	達成度	100%					
ボランティア派遣件数	目標	70	70	75	75	75	件
	実績	60					
	達成度	86%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.5	相談件数は目標に達しているが、派遣件数が目標を下回ったため評価を4.5とした。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	24	計画書ページ	72ページ
事業名	介護支援ボランティア制度によるボランティア活動の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 2 福祉ボランティアの推進
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

介護支援ボランティア制度の周知に努め、高齢者自身の社会参加活動への参加を促します。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 ボランティア活動を行う者として市に登録を行った唐津市に住む65歳以上の高齢者（要支援または要介護認定者を除く）が、市が指定する介護施設などでレクリエーションの指導やお茶出しなどのボランティア活動を行うもの。
 活動に対してポイントが付き、ポイントを現金に換算して交付金として市が交付する。

【成果】
 高齢者の地域貢献の機会を広めただけでなく、ボランティア活動を行う高齢者自身の介護予防につながった。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 制度の認知度が不足している。

【取り組み方針】
 ボランティア活動登録者とボランティア活動受け入れ事業所を拡大させ、介護予防を推進していく。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
ボランティア登録者数	目標	200	210	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	人
	実績	228					
	達成度	114%					
ボランティア活動指定施設数	目標	120	130	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	施設
	実績	128					
	達成度	107%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	サロンなど的高齢者の通いの場をボランティア活動の対象に追加し、数値目標は達成したが、地域の中でさらに活動が広がるよう活動内容を拡充する必要があるため。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

誰でも気軽に参加できるボランティア制度を地域の中でも広げてもらいたい。

様式 1

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	25	計画書ページ	74ページ
事業名	地域福祉の啓発		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	福祉総務課

1 事業概要

誰もが共に支え合う地域社会づくりを進めるため、その背景や必要性について、市公式ホームページや広報紙等により市民一人ひとりの意識啓発に取り組みます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
市公式ホームページ上にて「地域共生社会」の実現について、その求められる背景や市の取り組みについて啓発するページを掲載した。

【成果】
「地域共生社会」の実現について、市民への周知を行うことができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
ホームページ上での情報を充実させる。市報などほかの媒体での意識啓発について検討を行う。

【取り組み方針】
引き続き、地域福祉の啓発に努める。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
-	目標						-
	実績						
	達成度						
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.0	市の公式ホームページ上において、意識啓発に取り組むことができ、取り組みとしては順調に進んでいると評価した。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	26	計画書ページ	74ページ
事業名	認知症サポーター養成講座の開催		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	地域包括支援課

1 事業概要

認知症に対する理解を深め、認知症の人やその家族を見守り、支える認知症サポーターを増やし、安心して暮らせるまちづくりを目指します。特に、市内の小中学校や高等学校で講座を開催し、若年層に対する認知症への理解を向上させていきます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 公民館等で認知症に関する正しい知識の普及、対応の仕方などについて、寸劇を取り入れながら認知症サポーター養成講座を開催した。（25回開催、参加者579人）
 特に令和元年度は若年層に対し重点的に講座を開催した。（加唐小など4ヶ所の小中高校で開催、参加者134名）

【成果】
 受講後のアンケート結果によると、「症状を理解できた」と回答した者は97.3%、「対応を学ぶことができた」と回答した者は98.9%に上り、受講者の大半の方が認知症に対する理解を深めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 認知症サポーター養成講座の受講者が受講後に地域で活動できる場を作る必要がある。

【取り組み方針】
 ・認知症サポーター養成講座受講後希望者を募り、ステップアップ研修会を開催する。（年2回程度）
 ・今後も若年層向けの講座の開催を重点的に行う。

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
講座受講者数	目標	570	626	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	人
	実績	579					
	達成度	102%					
講座実施回数	目標	30	35	見直し	見直し後の数値	見直し後の数値	回
	実績	25					
	達成度	83%					

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	4.5	講座の開催数は目標達成していないものの、受講者数は目標を達成している。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）

養成講座を受講した方がさらに知り合い等に講座を広めてもらうことで受講者をさらに増やしてほしい。

第3期唐津市地域福祉計画 進行管理・評価シート（令和元年度）

事業No.	27	計画書ページ	74ページ
事業名	総合的な学習の時間等を活用した福祉教育の推進		

基本目標	IV 参加しやすくするために
施策の方向	1 3 地域福祉に対する意識の啓発
担当課	学校教育課

1 事業概要

総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験を行うなど、福祉に関する教育に取り組んでいきます。

2 令和元年度の具体的な取り組み内容（何をどのくらい行ったか）、展開に対してどのような成果があったか

【取り組み内容】
 各学校で総合的な学習の時間等を活用し、障がい者や高齢者の疑似体験などを行った。
 （例：【七山小中学校】 車いすバスケットボール体験 【佐志小学校】 ブラインドウォーク 車いす体験 高齢者体験（老眼・手足に重り等の負荷をかける等））

【成果】
 疑似体験を通じて、障がい者、高齢者への理解を深めることができた。

3 課題や今後の取り組み方針

【課題】
 体験学習等の実施に係る時間等の確保

【取り組み方針】
 各学校への啓発

4 進捗状況及び自己評価

数値目標等		R1	R2	R3	R4	R5	単位
実施校数	目標	53	53	53	53	53	校
	実績	37					
	達成度	70%					
-	目標						-
	実績						
	達成度						

点数	達成度	評価基準	自己評価	評価に対する説明
5	100%	完了（目標達成）	3.0	継続的に取り組んでいる学校が増えているが、今後時間の確保等の課題がある。
4	75%	順調に進んでいる		
3	50%	概ね順調だが、不十分な点が少しある		
2	25%	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い		
1	0%	実施方法も含め改善が必要である		

5 協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）